

第3者による外部評価総評

放課後等デイサービス、児童発達支援センター、保育所等訪問支援は、発達に特性のある子どもと家族を地域で支える中核的な制度である。放課後等デイサービスは学齢期を対象に、生活スキルの向上や社会性の育成、安心できる居場所の提供を担い、保護者の就労継続にも寄与している。一方で、事業所数の急増に伴い支援内容や専門性にばらつきが生じ、質の評価と人材確保が大きな課題となっているが、「みらい」では、活動内容等で創意工夫をして運営を上手に継続できている。

児童発達支援センターは、専門職による療育や家族支援、地域事業所への助言機能を持つ拠点として高く評価されており、「くるみ園」が地域で果たす意味と実益は、社会資源としての役割を十分に果たしている。ただ、地域差や待機の問題、児童や保護者の考え方の多様性等を含め、運営負担の増大が指摘されている現状も事実である。

保育所等訪問支援は、保育園や学校など、実際の集団場面で具体的支援を行い、インクルーシブ教育を推進する有効な仕組みであり、幼児期から児童期への成長過程の大事な柱となる役割を担っている。しかし、制度理解の不足や活用の偏りが見られる点は、「保育所等訪問事業」の全体的な課題であるともいえる。総じて、「個性」を大事に育み、保護者や関係機関等との連携や協力をしながら、「利用児」への積極的な支援や関わりの社会的意義は大きく、質の可視化、専門職育成、関係機関の連携強化が、今後の発展の鍵となることを踏まえ、更なる活動の充実や取り組みの工夫を施設や職員がそれぞれの評価を見直しながら、各事業所が地域で「利用児」を受け入れていく体制の充実を図っている。

📍 幸田裕司 📍 メンタルトレーナー

心理療法士・メンタルヘルス運動指導士

一般社団法人愛媛県ネットワーク協会

カウンセリングルームはぴねす

愛媛大学医学部看護学科・聖カタリナ大学保育学科・愛媛県いじめ対策アドバイザー

携帯 090 5271 0050 kouda-mental.com